

【彩流社の新刊ご案内】

FAX 03-3234-5932

【ジャンル】 小説・評論

2022年12月刊行

「かがみの孤城」 奇跡のラストの誕生

——源流「エヴァンゲリオン」「まどかマギカ」と虚構と現実の芸術論

北村正裕 著

四六判並製 / 248ページ / 予価 [本体 2000円 + 税]

来月12月にアニメ映画が公開予定のベストセラー小説『かがみの孤城』（辻村深月、ポプラ社、2018年本屋大賞受賞）は、学校で傷つき居場所をなくした少年少女が居場所を求めて不思議な居場所（孤城）で繰り広げる物語。大きな感動を呼んだ衝撃のラストシーンは、2017年単行本の元になったポプラ社のPR誌連載版では想定されていなかったものであり、むしろ矛盾さえするものであった。単行本への大改作を詳しく検証し、新しい結末が生まれた背景を考える。また、日本のSFアニメ史上最高傑作である『エヴァンゲリオン』シリーズと、『エヴァ』に強い影響を受けて生まれた『魔法少女まどか☆マギカ』の2作品を『かがみの孤城』の源流作品と位置づけ、パラレルワールドなどのキーワードから比較し、現実の相対化、虚構と現実の関係を問う。

*もくじ

序章 孤独な少年少女の居場所としての
「かがみの孤城」
第1章 連載版から17年版への大改作
第2章 「かがみの孤城」が示した類型化への抵抗
第3章 「かがみの孤城」と「魔法少女まどか☆マギカ」
第4章 虚構の中の創造主
——「エヴァンゲリオン」と円環の物語

◎北村正裕（きたむら・まさひろ）…文学・芸術論ライター。多くのファンを刺激した代表作『エヴァンゲリオン解説』（三一書房、2001年）は、96～97年のいわゆるエヴァンゲリオンブームが終わった後であったにもかかわらず増刷を重ね、文庫版『完本 エヴァンゲリオン解説』（静山社文庫、2010年）として読み続けられている。童話作家、シンガーソングライター、数学教師としても活躍。絵本『ガラスの中のマリー』（三一書房）ほか、アンソロジー『わすれものをした日に読む本』（偕成社）や『月刊 MOE』などに作品を掲載。

貴店印【新刊】	発注数	北村正裕 著	予価（本体 2000円 + 税）	年 月 日
		書名	「かがみの孤城」 奇跡のラストの誕生 (仮)	
ご担当者名 = 様	冊	ISBN978-4-7791-2876-9 C0095		

FAX 03-3234-5932

TEL: 03-3234-5931 本棚に知の彩りを 彩流社
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町三丁目10番地 大行ビル6階